

横浜型救急システムについて

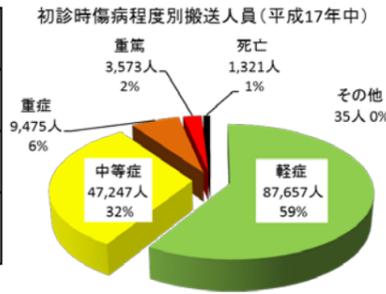
1 横浜型救急システム以前の運用 ～H20.10.1まで

【横浜型救急システム以前の運用】

- 救急隊1隊3名で出場
- ※ 18年6月1日から、消防隊と救急隊の連携出場（P A連携）を開始

【横浜型救急システム構築前における救急出場件数等の状況】

| | 救急出場件数 | 救急隊数 |
|-------|-------------------|---------------|
| 平成8年 | 106,232件 | 52隊 |
| 平成17年 | 162,536件 | 62隊 |
| 増減 | 56,304件 (53%増) | 10隊 (19%増) |



【課題】

救急件数の増加に伴い、同じ地域での救急要請の重複が増加し、「危篤状態」の傷病者に対する現場到着の遅れが懸念された。

2 横浜型救急システムの運用開始 H20.10.1～H24.3.23

【横浜型救急システムの基本的な考え方】

- 緊急度等が高い傷病者へのファーストタッチを早める。
- 緊急度等に応じて必要な部隊を弾力的に投入する。

【横浜型救急システムによる運用体制】

- 119番通報時の緊急度・重症度識別（コールトリアージ）の導入
- 2名運用救急隊の導入（62隊中42隊を2名運用救急隊とした。）
- 救命活動隊の導入（2名運用救急隊とペアで配置した。）

【効果】

- 緊急度等が高い事案に対する早い現場到着
- 救命活動隊が一定の救急空白地域をカバー

【課題】

救急隊及び救命活動隊の2隊4名で出場するディスパッチレベル2が8割以上を占め、当初想定していた重篤な傷病者への空白カバーが十分でなかった。

3 横浜型救急システム運用見直しの試行 H24.3.23～現在

【横浜型救急システムの運用見直し】

- 救急隊の編成人員
救急隊は1隊3名で編成。ただし、識別カテゴリ「C」は、2名での出場も可能。
※2名で出場した場合、残った救急隊員1名は、救命活動隊又は消防隊に勤務し、救急空白地域で発生した識別「A+」又は「A」の事案に出場
- ディスパッチレベルの見直し
ディスパッチレベル2を緊急度等が比較的高い、識別カテゴリ「A」と、緊急度等が中程度の識別カテゴリ「B」以下の二つに分割した。
- 救命活動隊の編成及び出場対象
救命活動隊は、消防隊のうち2名で編成。
出場対象は、識別カテゴリ「A」とし、救急隊より救急現場に近い事案に限定した。

【見直し運用による効果】

- ディスパッチレベルの見直しにより、F A連携出場が大幅に減少した。
- 識別カテゴリ「A」における救命活動隊の先着事案が大幅に増加し、救急隊より平均で3.6分早く現場到着している。

出場体制

※部隊標記

- P:消防隊
- F:救命活動隊
- A:救急隊
- A3:3名運用救急隊
- A2:2名運用救急隊

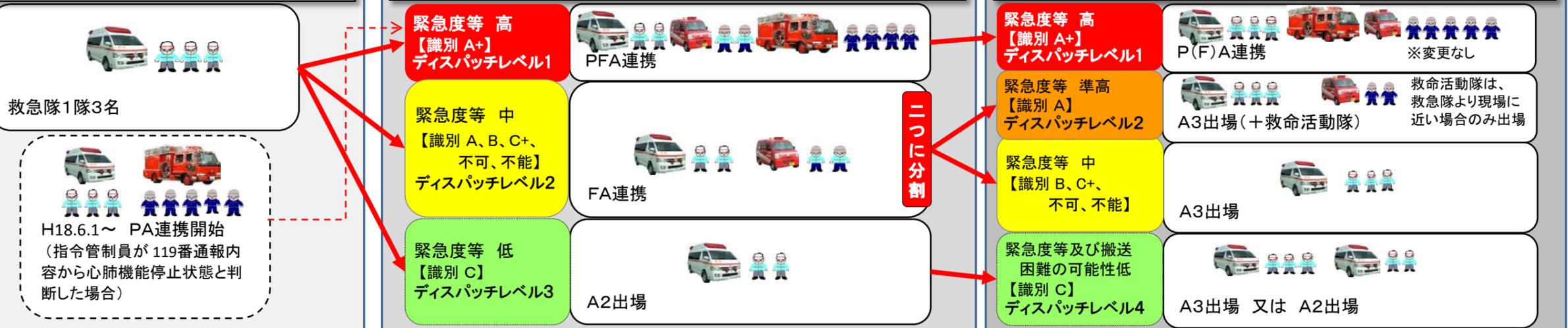


表1 緊急度・重症度識別分類(カテゴリ)とディスパッチレベル(部隊編成)の関係

| 識別カテゴリ | カテゴリの定義 | ディスパッチレベル | |
|--------|----------------------------|-----------|------|
| | | 当初運用 | 試行運用 |
| A+ | 生命の危険が切迫している可能性が極めて高いもの | レベル1 | レベル1 |
| A | 生命の危険が切迫している可能性があるもの | レベル2 | レベル2 |
| B | 生命の危険性があるもの | | レベル3 |
| C+ | 生命の危険性はないが、搬送に困難が伴うと思われるもの | レベル3 | レベル4 |
| C | 生命の危険はなく、搬送に困難が伴う可能性が低いもの | | レベル3 |
| 不可 | 通報からの情報不足により、識別が不可能なもの | レベル2 | レベル3 |
| 不能 | 転院搬送、災害事案、覚知通報等、識別を実施しないもの | | レベル3 |

表2 救急連携出場件数の状況比較 (単位:件)

| | 平成22年中 | | 平成24年度中 | |
|------------|-----------------|-------|---------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 全救急出場件数 | 158,631 | 100% | 171,937 | 100% |
| ディスパッチレベル2 | 136,747 | 86.2% | 23,962 | 13.9% |
| 内 FA連携出場件数 | 89,984 | 56.7% | 4,336 | 2.5% |
| | (内識別「A」は14,424) | | | |

※24年度データは速報値です。
※ディスパッチレベル2は、当初運用では識別「A」、「B」、「C+」、「不可」、

表3 識別カテゴリ「A」における救急連携出場件数及び救命活動隊の先着状況比較 (単位:件)

| | 平成22年中 | | 平成24年度中 | |
|---------------------|--------|------|---------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 識別カテゴリ「A」でのFA連携出場 | 14,424 | 100% | 4,336 | 100% |
| 内 救命活動隊先着 | 690 | 4.8% | 3,226 | 74.4% |
| 救命活動隊先着時の救急隊との到着時間差 | 3.3分 | | 3.6分 | |

※24年度データは速報値です。

救急事案の重複に伴う救急空白地域の発生について

別紙

